

山田中学生のカレー食べて

地元野菜やみそ使用、レトルトパックに



今月から湯沢市のふるさと納税返礼品に加わったキーマカレーのレトルトパックを手にする高橋さん

湯沢市の山田中学校（神林雅紀校長、69人）の生徒が開発したキーマカレーのレトルトパックが今月から、市のふるさと納税の返礼品に加わった。県の新品種米「サキホコレ」などとのセットで扱われている。市によると、地元中学生の考案した商品を扱うのは初めて。

同校は2018年度、キャリア教育の一環として、生徒が社員となって地域活性化を図る模擬会社「YAMACHU（やまぢゅう）コーポレーション」を設立。「総合的な学習」の授業で、市内事業者の協力を得ながらキーマカレーを作っている。材料に地元のエダマメやトマト、みそを使用。「何かに立ち向かう際のエネルギーにしてもらいたい」との思いを込め、「勝ち飯キーマカレー」と名付けている。

過去には店舗を借りての対面販売などを生徒が体験してきたが、21年度はコロナ禍でできなかった。模擬会社を存続させる手段を模索する中で、昨年8月に市ビジネス支援センター「ゆざわBiz（ビズ）」に相談。新たな販路を求めていた同市の米穀卸売業・鈴木又五郎商店を紹介され、連携することになった。

ふるさと納税 湯沢市、返礼品に追加

模擬会社では21年度、「持続可能な開発目標（SDGs）」の考え方を活動に取り入れることにしていた。同店との連携は、SDGsで掲げる「パートナーシップで目標を達成しよう」に合致することから、開発した地元産品を返礼品として展開することを決めた。

返礼品のセットはレトルトパック（185グラム）5食分と、サキホコレ2kg、玄米レトルトパック（150グラム）5食分で構成。2万円以上の寄付で選択できる。サキホコレはなくなり次第、あきたこまちに切り替わる。

模擬会社の最高経営責任者（CEO）を務める高橋太聖さん（3年）は「活動を通じ、学校外の人たちとの接し方などを学んだ。生徒全体の動きを把握し方向付けることに苦労したが、諦めずに取り組むことができた」と振り返った。担当した石塚修教諭は「（コロナ禍の）予測できない事態の中で、生徒たちは対応する力を養ったと実感している」と話した。

市は「市外に住む人たちがより一層、ふるさとを応援するきっかけになることを期待している」としている。

（小林智彦）

（令和4年3月6日（日）秋田魁新聞記事より抜粋）